

令和7年度第1回羽島市男女共同参画懇話会会議要旨

日 時	令和7年5月23日（金） 午後3時30分～4時30分
場 所	羽島市役所 第1委員会室
出 席 者	（委員）出席者6名 北村直子会長、富田かおり副会長、岩越トミノ委員、山田小百合委員、南谷東子委員、野村美奈委員 （事務局）出席者13名 松井市長、伊藤市民協働部長、丸山市民協働部次長兼生涯学習課長、富田市民協働課長、奥村同課主幹、野田同課係長、豊田同課主事、岩田職員課長、高田子育て・健幸課長、國井子育て・健幸課健幸担当課長、浅野危機管理課長、金子商工観光課長補佐、長江学校教育課長補佐
内 容	1 開会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 協議事項 「羽島市男女共同参画プラン2025」施策内容について ・事務局より資料に基づき説明 ・事前質問について、各担当課より回答（生涯学習課、市民協働課、子育て・健幸課、職員課、危機管理課） 【意見・質疑】 （委員） ・人権擁護委員として、保育園、幼稚園、小中学校、高等学校など、対象に応じて人権教室の内容を検討しながら実施している。 ・メディアで20歳、30歳代の孤独死が多いという報道があった。人と人との繋がりを深めること、拠り所になるようなものが必要と感じた。 （事務局） ・人権教育に纏わる男女の平等化については、児童生徒の理解はされていると認識している。一方で、自分と自分以外は違うというような差別意識やアンコンシャスバイアスが存在している。 ・行政でできることは限りがあり、行政でできること、地域でできること、個人でできることを明確にしていく必要があり、家庭教

育が最も重要だと思われる。

(委員)

- ・中学生向けのリーフレットについて、内容が丁寧で充実していると思う反面、情報が多いと感じる。どのような場面で活用する予定か。

(事務局)

- ・市内全中学校に配付しており、道德の授業を中心に活用している。ご意見を踏まえ、年間１度の授業だけではなく、継続的に指導していくよう学校に啓発していく。

(委員)

- ・家庭向けリーフレットについて、具体的なケースを記載し、自分を省みるような問いかけ形式の内容で作成することで、読んでもらいやすいものになるのではないかと。

(事務局)

- ・今回のプランにおいては、義務教育より以前の子どもたちに対しても男女共同参画の意識を醸成することができるよう施策を入れさせている。
- ・家庭向けリーフレットに関しては、アンコンシャスバイアスが存在するような事例をいくつか掲載するなどし、作成させていただく。

(委員)

- ・災害時のトイレについて、性的マイノリティの方も含め、男女誰でも使うことができるトイレの設置を検討いただきたい。
- ・個別避難計画の作成を進めているとのことであるが、視覚障害者の方、身体障害者の方など、当事者の方々の意見を聞いて作成されているのかお聞きしたい。

(事務局)

- ・性的マイノリティの方も含め、妊婦の方、障がいをお持ちの方など、誰でも利用できる災害用ユニバーサルタイプのトイレを用意している。
- ・個別避難計画の作成については、計画を作成しなければいけないが、対象となる障がい者の母数の把握ができていない。これにつ

いては、後日所管である福祉課からご報告させていただきたい。
(別紙1)

(委員)

- ・岐阜県教育委員会のデータによると、教員の全職員の中で、途中退職が多いのは20代から30代の女性であるとのこと。子育て、結婚、育児、仕事などで困難を抱えやすいこの世代をサポートしていくにあたって、羽島市は手厚い施策が並んでいる。例えば、ファミリーサポートセンター事業は、様々なサポートが受けられるとても良い事業であるため、周知をしていただきたい。
 - ・学校現場においても、男性職員の育児休業取得が増えている。
- No.26「市役所における育児・介護休業制度への理解促進」において、当事者だけではなく周りの職員にも制度内容を周知していくということについて、本当にその通りであると感じている。育児休業取得をする人を支える周りがいるということも周知していく必要がある。介護休業制度にも同様のことが言える。

5 閉会